

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473601100	事業の開始年月日	平成18年2月1日
		指定年月日	平成18年2月1日
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所		
事業所名	グループホームアカシヤの家		
所在地	(245-0003) 横浜市泉区岡津町2901-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年10月10日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑豊かな環境に囲まれ、四季折々の庭で季節の行事を行うことができます。機械浴槽を設置しており、一般浴が困難な方でも入浴を楽しむことができます。ご利用される方やご家族様の希望によりお看とりまですごして頂くことができます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年11月30日	評価機関 評価決定日	令和5年1月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、相鉄いずみ野線「緑園都市」駅より徒歩約8分、緑豊かで里山的な雰囲気のある自然環境に恵まれた所に位置しています。建屋は木造2階建ての1、2階とも建屋の中央に共有スペースとなる広いリビングを有し、2ユニット18室からなるグループホームです。

<優れている点>

安心して過ごせる居住環境となっています。芝生の庭やリビングからの日向ぼっこ、ベンチでの団らん、庭では野菜栽培などが楽しめます。また、体力の衰えや重度化等に対応できる機械浴が設置されています。入居者や家族からの希望により終末期介護にも取り組んでいます。地域と一体化した交流の取り組みにも尽力し、認知症介護に関して地域の基地的な活動を行っています。回覧板やゴミ出しの自治会活動は勿論のこと、玄関に鍵をかけず、近隣の人が自由に立ち寄りお茶を飲みに来る環境となっています。認知症で悩んでいる人の介護の相談に応じたりと、地域の認知症介護に関して頼もしい存在となっています。更に、災害時には高齢者や障害者などの避難場所としてリビングの開放や入居者以外の災害備蓄品の若干の用意も行っています。

<工夫点>

服薬の適切な投与と誤投与を避けるための取り組みを行っています。投与前後の担当者を変え、2重チェックによるケアレスミス防止を行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームアカシヤの家
ユニット名	ひなげし

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は玄関に掲示し、朝礼等で職員と話し合い実践につながるように努めている。	法人の理念と共に、地域密着型サービスの意義をより実践に活かせるよう事業所の理念を定めています。管理者と職員は、理念を共有し更に浸透させるため、朝礼時に唱和し、毎年目標設定時には理念の実践計画を策定しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に参加し、ゴミ当番や回覧板を回したりして地域の一員として活動している。	地域の一員として、自治会活動に参加すると共に事業所の特性を活かした取り組みを展開しています。地域の認知症患者の人がお茶飲みに立ち寄り、認知症ケアの相談に乗るなど、地域の認知症介護の発信基地的存在として頼られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所の勉強会や行事に可能な範囲で参加して頂き、認知症についてのお話しをさせて頂いている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、ご入居者様のご様子などご報告し、地域からの情報を頂いている。	2ヶ月に一度開催し、できるだけ対面開催を心がけていますが、コロナ感染症状況により、書面会議開催となっています。委員は、町内会役員、入居者代表及び地域包括支援センター担当者となっています。会議内容は活動状況の報告や参加者からのQ&A等になります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	横浜市のグループホーム連絡会に加入し研修などに参加している。	横浜市担当窓口は「介護事業指導課」になります。横浜市主催による「集団指導講習会」も受講しています。横浜市のグループホーム連絡会にも加入し、同業者との意見交換を通じて様々な情報を得る場ともなっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を行い、玄関の施錠も含めて身体拘束を行わない取り組みに努めている。	玄関の施錠や転落防止センサーを使用しない「身体拘束を行わない取組」を推進しています。対応の基本は、声掛け、見守り等のこまめなケアにあり、トラブルが発生した場合はその都度知恵を絞った対応策を皆で話し合い支援にあたっています。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度行っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止の研修を行い職員の理解を深め虐待が見逃されることのないよう努めている。	「高齢者虐待」の研修会を毎年行い、朝礼時や毎月の全体会議にて状況の確認を行っています。業務上の何気ない不注意にも、職員間相互で見逃さないよう防止に努めています。職員のストレスが虐待を誘発しないよう、管理者がメンタルヘルスに留意しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度等の研修を行い職員の理解を深めることができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては、重要事項説明書や契約書を口頭で説明を行い、ご本人やご家族の不安や疑問をお聞きし、事業所のできることでできないことを説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月に1回ご家族へ状況報告を行い、返信用封筒を入れ、ご希望などがあれば返信できるようにしている。	運営推進会議・電話・意見箱など色々な場面で利用者や家族から意見や希望を聞いています。月一度、家族へ状況報告書を送付し、返信用を添え意見を貰う頻度が多くなっています。事業所からの相談ごとも伝え、意見を貰っています。意見は、適宜対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝礼等で職員の意見を聞いてケアに生かせるように務めている。	職員の意見は、朝礼や毎月行う全体会議の場で定期的に、状況によってはその場でも聞いています。職員へ意見を投げかけることで職員のモチベーションの向上にも繋げています。タブレット活用によりケアの共有化を図っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談を行い本社の関係者と情報を共有し各自が働きやすいように職場環境の整備に努めている。	職員の定着率が高い職場となっています。「残業ゼロ」、「休暇取得の支援」などの労働環境や「管理者のマネジメント」、「ハラスメントの未然防止」などの職場環境整備に努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	1人1人の力量を把握し法人内外の検収に参加したり介護福祉士の有資格者よりアドバイスを行えるように努めている。	年度初めに研修計画を立て、それに基づき毎月研修を実施し、職員の育成に取り組んでいます。キャリアパスに応じて目標を立て、資格取得を支援しています。現在、事業所にはケアマネジャー資格者が複数人います。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修等に参加した際に同業者との交流が図れるように努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居時に本人が困っていることや不安に思っていることに耳を傾け、本人が安心して生活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご入居前より良く相談し、ご入居時も十分な時間を取り、要望をお聞きしこまめに連絡会をとるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご入居時にご本人やご家族が必要としている支援の優先順位を話し合い、本人家族の了承を得て対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員はご入居者と一緒にできる事を探しながら協力し合い生活できるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族や友人が面会に来られた時は庭のベンチや玄関に面会できる環境整備を行い会話を楽しんで、頂いている。事業所の職員だけでは対応が困難な時はご家族にも協力して頂いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人やご家族との関係が途切れないように手紙や電話どかけることができるように支援している。	コロナ禍の現在は感染症予防により従前のような面会は制限付きとなっておりますが、家族の承諾を得て、できるだけ会って話せる機会を増やしています。馴染みの場所への外出も、制限はありますが状況に応じて支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者間の関係を把握し1人1人は孤立しないように話しを聞いたり必要に応じて介入しトラブルにならないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご入居者のサービスが終了した後もご家族様が事業所に足を運んでくださり近況報告		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望・意向について耳を傾けたり、カンファレンスによって以降の把握に努めている。	管理者と職員は家族からの事前のヒアリング内容と入居後の事業所での日々の生活状態をもとに詳しく観察しています。入浴時、食事の折、レクリエーションを実施の間、日々の会話やその日の笑顔の有無など、あらゆる角度から入居者の今の気持ちを知る努力をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートや担当のケアマネージャーから情報を頂いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々に個人記録を用意し現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の朝礼でご入居者の状態を把握し、ご家族へ電話連絡や来所された時に説明しご意見を伺い、カンファレンスにて見直しを行うよう努めている。	介護支援専門員を兼務の管理者と職員、医療チームでケアプランを作成し、家族に説明します。短期では3ヶ月、通常は6ヶ月で見直します。緻密なモニタリングを行っています。一部の投薬を止めて支援を継続したところ、意識レベルが著しく改善した事例もあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケアの実践を個人記録に記入し申し送り事項を朝礼等で情報共有しながら実践につながるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の状況とその時々ニーズに対応してレクリエーションや外出を考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアさんの受け入れにより、ご本人の能力を発見していけるように努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医に適切に受診できるように努めている。	事業所の提携医で内科が月2回、歯科が週1回、精神科が月2回の訪問診療を行います。また週1回の訪問看護もあります。家族の支援でかかりつけ医への受診もあり、これらの受診結果は詳細に報告を受けて事業所内でファイルしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回訪問看護師の来所持に日々ご入居者の気なることを相談したり緊急時は24時間連絡をとることができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者の入退院時は病院関係者やご家族とともに情報を共有し支援に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	定期的な往診から重度化した時のあり方について本人、家族、医療関係者と話し合う時間を持ち事業所でできる事を説明し支援に努めている。	入居時に終末期の対応を確認しています。その後、家族の意向の変化も確認し協議しています。事業所、医療機関との連携を行いながら支援をしています。共に見守りしている職員たちの直面する複雑な思いにも配慮、対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ご入居者の急変や事故発生に備えて研修を行い実践につながるよう努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を定期的に行ない、ご入居者が昼夜問わず避難できるよう努めている。	年2回の火災訓練は昼、夜に分けて全員参加の訓練を行っています。訓練後は反省会を開き、次回に活かす改善案を記録に残しています。緊急時の備蓄では、品目選定、購入、保管管理は事業所で行います。ヘルメットなどの備品リストもあります	緊急時に即に必要な物など使用優先度をつけて保管管理を工夫し、尚且つ近隣の軽度認知症住人や老人の非難場所としての備蓄も行っています。保管場所拡張や現在の継続を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	虐待・接遇の研修を通して相手を尊重する言葉がけに努めている。	入居者には「～さん」で声掛けをします。研修は接遇、人格尊重をテーマに事例紹介を含めて行います。基本はOJTで管理者、ベテラン職員が指導しています。管理者は気付いた事はその場でアドバイスや意見交換をするなど職員の利用者への日々の対応を見守っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自身の気持ちが話せるように職員がその都度優しく声をかけ、耳を傾けながら自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人ひとりの意向やその時々のお気持ちに配慮し、無理強いしないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に1回訪問理美容をご利用されカットやカラーリング、パーマなどご希望の髪型にされています。ご本人の愛用されている化粧品がそれぞれあります。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の下ごしらえや盛り付け、配膳などご入居者とともにできるように努めている。	食材は契約業者から購入します。入居者の好みを聞きながら献立も作ります。刻み食などの対応もし、パン食も取り入れています。行事食、季節食、イベント食なども作ります。デザート、おやつにもバラエティを持たせ食を楽しめる工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の記録に食事量、水分摂取量を記録し1人ひとりの状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを実施し個々にあった歯ブラシ、歯間ブラシ、糸ようじや舌ブラシ等を利用し生活保持に務め、定期的に歯科医の受診を受けられている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日々の記録に排泄状況を記録し排泄パターンが把握できるよう努めている。	摂水量の把握、食事量の増減、日々の排泄リズムなどを入居者ごとに経時記録で管理しています。便秘薬の投与や体調変化なども医師と相談します。管理者の看護師、介護支援専門員の経験のもと、細かな配慮に心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事にブルーベリーやヨーグルト、食物繊維のある食材を提供しレクリエーションに体操を取り入れ便秘が改善できるように努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご入居者の状態や希望にあわせて入浴して頂いている。個々に応じての入浴支援や身体状態にあわせ機械浴もご利用頂いている。	週に2回の入浴では、午前も午後もどちらの入浴も可能となっています。個々の状況に合わせて機械浴もあります。脱衣所を26～27度の室温にし、ヒートショック対策にも備えています。広い浴室は清潔に保たれていて、入居者の本音が聞ける寛いだ会話のできるスペースになっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室だけでなく、リラクシングソファや和室の畳の上で横になって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師との連携により、安全に服薬して頂くことができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の会話の中からお本人の希望を把握し、毎気分転換ができるように努めている。(毎日の晩酌などされています。)		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新形コロナウイルスの流行により、外出は難しい状況ではありますが、事業所の庭に出て外気浴を楽しんで頂いている。	コロナ禍により感染症防止のため外出を自粛しています。現在は日当たりの良いテラスで外気浴や、広く開放的な庭で、畑の世話や散歩などをしながら気分転換を図っています。職員は室内外でのレクリエーションの内容を工夫しながら、入居者のストレス解消に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望により、財布を所持して頂いている。必要に応じてお支払いをして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族から手紙が届いたりお電話をおかけしたりされている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季に応じて庭に花を植えたり、柚子やミカンなどの果実も収穫できます。館内は季節ごとのディスプレイを行い季節を実感して頂くことができるように努めている。	採光良く明るいリビングにテーブルやソファがゆったりと配置されています。一角には、ごろりと昼寝もできる畳敷きのスペースもあります。庭に面しておかれた大きなイスは、鳥のさえずりを聞きながら静かに寛ぐ場所となっています。清潔で快適な空間となるように努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室は常に開放しており、洗濯物をたたんだりTVを見たり、思い思いの空間としてご利用頂いております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内にご家族様との写真やご仏壇、ご自宅で使いなれた家具などをご持参頂いている。	エアコン、照明、ベッド、クロゼットは備え付けです。広く使用できるよう家具の配置にしています。リネンや清潔にも配慮しています。思い出の品や写真、絵を飾り居心地良く過ごせるような工夫もしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室はわかりやすく表示し、声かけや見守りで自立した日常生活を行うことができるように努めている。		

事業所名	グループホームアカシヤの家
ユニット名	つきみそう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は玄関に掲示し、朝礼等で職員と話し合い実践につながるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に参加し、ゴミ当番や回覧板を回したりして地域の一員として活動している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所の勉強会や行事に可能な範囲で参加して頂き、認知症についてのお話しをさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、ご入居者様のご様子などご報告し、地域からの情報を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	横浜市のグループホーム連絡会に加入し研修などに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を行い、玄関の施錠も含めて身体拘束を行わない取り組みに努めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止の研修を行い職員の理解を深め虐待が見逃されることのないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度等の研修を行い職員の理解を深めることができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては、重要事項説明書や契約書を口頭で説明を行い、ご本人やご家族の不安や疑問をお聞きし、事業所のできることでできないことを説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月に1回ご家族へ状況報告を行い、返信用封筒を入れ、ご希望などがあれば返信できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝礼等で職員の意見を聞いてケアに生かせるように務めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談を行い本社の関係者と情報を共有し各自が働きやすいように職場環境の整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	1人1人の力量を把握し法人内外の検収に参加したり介護福祉士の有資格者よりアドバイスを行えるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修等に参加した際に同業者との交流が図れるように努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居時に本人が困っていることや不安に思っていることに耳を傾け、本人が安心して生活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご入居前より良く相談し、ご入居時も十分な時間を取り、要望をお聞きしこまめに連絡会をとるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご入居時にご本人やご家族が必要としている支援の優先順位を話し合い、本人家族の了承を得て対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員はご入居者と一緒にできる事を探しながら協力し合い生活できるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族や友人が面会に来られた時は庭のベンチや玄関に面会できる環境整備を行い会話を楽しんで、頂いている。事業所の職員だけでは対応が困難な時はご家族にも協力して頂いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人やご家族との関係が途切れないように手紙や電話どかけることができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者間の関係を把握し1人1人は孤立しないように話しを聞いたり必要に応じて介入しトラブルにならないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご入居者のサービスが終了した後もご家族様が事業所に足を運んでくださり近況報告		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望・意向について耳を傾けたり、カンファレンスによって以降の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートや担当のケアマネージャーから情報を頂いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々に個人記録を用意し現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の朝礼でご入居者の状態を把握し、ご家族へ電話連絡や来所された時に説明しご意見を伺い、カンファレンスにて見直しを行うよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケアの実践を個人記録に記入し申し送り事項を朝礼等で情報共有しながら実践につながるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の状況とその時々ニーズに対応してレクリエーションや外出を考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアさんの受け入れにより、ご本人の能力を発見していけるように努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医に適切に受診できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご入居者間の関係を把握し1人1人は孤立しないように話しを聞いたり必要に応じて介入しトラブルにならないように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者のサービスが終了した後もご家族様が事業所に足を運んでくだり近況報告		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人の希望・意向について耳を傾けたり、カンファレンスによって以降の把握に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	アセスメントシートや担当のケアマネージャーから情報を頂いて把握に努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	個々に個人記録を用意し現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	虐待・接遇の研修を通して相手を尊重する言葉がけに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自身の気持ちが話せるように職員がその都度優しく声をかけ、耳を傾けながら自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人ひとりの意向やその時々のお気持ちに配慮し、無理強いしないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に1回訪問理美容をご利用されカットやカラーリング、パーマなどご希望の髪型にされている。ご本人の愛用されている化粧品がそれぞれあります。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の下ごしらえや盛り付け、配膳などご入居者とともにできるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の記録に食事量、水分摂取量を記録し1人ひとりの状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを実施し個々にあった歯ブラシ、歯間ブラシ、糸ようじや舌ブラシ等を利用し生活保持に務め、定期的に歯科医の受診を受けられている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日々の記録に排泄状況を記録し排泄パターンが把握できるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事にブルーベリーやヨーグルト、食物繊維のある食材を提供しレクリエーションに体操を取り入れ便秘が改善できるように努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご入居者の状態や希望にあわせて入浴して頂いている。個々に応じての入浴支援や身体状態にあわせ機械浴もご利用頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室だけでなく、リラクシングソファや和室の畳の上で横になって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師との連携により、安全に服薬して頂くことができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の会話の中からお本人の希望を把握し、毎気分転換ができるように努めている。（毎日の晩酌などされています。）		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスの流行により、外出は難しい状況ではありますが、事業所の庭に出て外気浴を楽しんで頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望により、財布を所持して頂いている。必要に応じてお支払いをして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族から手紙が届いたりお電話をおかけしたりされている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季に応じて庭に花を植えたり、柚子やミカンなどの果実も収穫できます。館内は季節ごとのディスプレイを行い季節を実感して頂くことができるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室は常に開放しており、洗濯物をたたんだりTVを見たり、思い思いの空間としてご利用頂いております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内にご家族様との写真やご仏壇、ご自宅で使いなれた家具などをご持参頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室はわかりやすく表示し、声かけや見守りで自立した日常生活を行うことができるように努めている。		

2022年度

事業所名 グループホームアカシヤの家
 作成日： 令和5年1月30日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	令和4年6月25日よりベトナムより外国人技能実習生が入職しており、既存の職員や実習責任者が対応しているが職員によりケアの内容の説明がまちまちになっている。	統一したケアの内容の説明を職員が技能実習生に行うことができるようになる。	1人1人のケア内容の確認を職員各自がしっかり把握し、技能実習に伝えることができるようになる。	12ヶ月
2	13	コロナ過でもあり、外部研修を受ける機会が少ない。	外部研修を受ける機会を持つことができる。	定期的に外部研修を受けることのできる場所を探して職員が参加できるようにしていく。	12ヶ月
3	23	外出の機会が減り、時には面会制限をお願いすることもあるなかで、ご入居者の気持ちもストレスを抱えているのではと考える。	ご入居者の気持ちの把握ができるようになる。	職員とご入居者が1対1になるような場面の時に職員が良く話しをお聞きしていく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月